資料4－4
（参　考）

岡山市基本政策審議会における委員発言要旨（市民協働・ESD分野）

No.	発言のポイント	要旨
1	市民参画による議論推進を	岡山の人は故郷愛・郷土愛に満ちているように見えるが、現状に満足している感があり、もっとよくしようという感じがない。市民が参画して意見を言い合ったり、議論をしたり、話し合う機会とか、それができるような情報公開や実態の見える化が少ないのではないか。議論の文化を根付かせるためには教育の改善が必要だ。また、情報公開や市民参画の議論などを専門に行う横断的な部署を行政内に設置して推進する必要がある。
2	市民参加のまちづくりを	地区の愛育委員をしているが、女性に助けていただくことが多い。地域の力の強さを感じる。女性を中心とした地域の力をまちづくりに生かせないか。地域包括ケアなど福祉関係では、市の担当者が市民の中に入っていっている。市民とともにまちづくりを進めることが必要だ。
3	地域ぐるみの子育てを	女性が子育てをする際に、地域や社会の支援が多岐多様にわたる形を考える。子育ての中心は女性であっても、サブ的な役割で高齢者や退職者、男性など、地域の人がいろいろな形で子どもと関わっていける。そういう環境づくりができたらいい。
4	助け合いの仕組みづくりを	笠岡市のNPO法人子ども劇場笠岡センターでは、ふれあい・たすけ愛サービスを行っている。子育てや介護、移動・通院など、さまざまな困りごとを互いに助け合えるような仕組みをつくっている。こういった活動を岡山市でも生み出せたらいい。
5	高齢者の参加促進と孤立防止を	地域活動に参加していない人が半分いる。特に20代は7割以上が参加していない。ただ、60代、70代でも4割近くが参加していない。若い人は結婚して育児を通じて、地域に関わるということを地道に進めていくしかない。60代、70代についてはきっかけがないとか、情報がないというのが理由だが、男性高齢者の孤立化が心配だ。
6	セーフティネットの構築を	単身高齢者が増えており、火事や事故の増加が懸念されている。セーフティネットの構築を考えていく必要性がある。
7	見守る体制づくりを	連合婦人会では単身高齢者の安全確認をしながら、弁当を配る活動をしている。多いところでは年12回、少ないところでは1回とか。ただ、毎日するわけにはいかない。やはり安全・安心のネットワークとか、コミュニティ活動が協力して、見守る体制を整えることが必要だ。
8	安全・安心ネットワークのステップアップを	安全・安心ネットワークの成果として、いろいろな方が参加して、福祉、教育、子育てなど、総合的な取り組みが進められている。地域の拠点として、ステップアップする必要がある。皆さんが多くの役を持ち、多忙なところをできるだけ一本化して、地域のことを考えることが必要になっている。
9	安全・安心ネットワークの活動の広がりのために	安全・安心ネットワークの活動では、メンバーの高齢化・固定化、若い世代の参加が少ない、住民が無関心といった課題がある。在宅医療や介護の出前講座をしている市の職員や、地域包括センターの方々とかが地域と深く関わっていて、それが地域住民の組織活性化につながる可能性もある。地域問題について、大学の研究者をコーディネーターとして活用していただくことにも積極的に関わっていきたい。
10	NPOの地域活用を	岡山にはNPOが多い。NPOは多くの知見やネットワークを持っており、それを学んで地域の中に活用することを考えたらどうか。

資料4－4
（参　考）

岡山市基本政策審議会における委員発言要旨（市民協働・ESD分野）

No.	発言のポイント	要旨
11	安全・安心ネットワークへの参加を促進する	安全・安心ネットワークで、NPO法人や企業の参加を促進する。郵便局とか商店、スーパーなどにも入ってもらって、一緒に活動していけば幅が広がる。
12	組織同士の連携を	安全・安心ネットワークに関わっている組織は非常に多いが、企業やNPOの参加はない。地域の地縁組織と、地域と関係ないネットワーク組織が連携したり、一緒に何かを進める取り組みができてもいいのではないか。県内では地縁組織と民間のNPO、企業が協働事業をしたり、その支援を行っているところもある。参考になるのではないか。
13	企業・学校の組織参加を	町内会の高齢化が進んでいる。企業も町内の構成員だと考えれば、町内の安全・安心のネットワークに加えていく。結果、若い社員と地域との関係がつくれたらいい。また、行政・大学・地域住民組織間の連携が重要だ。学生にデータを与えればいいアイデアを出してくるし、行動力もある。企業や学校を安全・安心ネットワークに入れていくことが必要だ。
14	外国人市民を含めた組織化を	多文化共生社会を目指すために、多国籍防災会議など、外国人市民も含めた安全・安心ネットワークの構築が重要だ。外国人市民会議を岡山市が開催しており、そこで提案された事案の中には市民協働でできることもある。意見を積極的に取り入れていくことだ。
15	町内会のあり方	地方自治は市と町内会との連携で行われている。町内会の運営はボランティアによる奉仕であり、柔軟に対応してもらいたい。ただ、市は決まったことを押し付けてくる。町内会は市の下請けではない。
16	市職員の積極参加を	市民協働では、市の職員の方が、若い人も含めて、いろいろな社会活動にどんどん積極的に参加していただく。まず市の職員の方が、自分が住んでいる地域の活動に参加していただくことが、いろいろなことを考えていく上で重要になる。
17	ソーシャルビジネスの支援を	ソーシャルビジネスに取り組む企業や組織は大規模ではないが、公共性の高いサービスの提供ができる。ソーシャルビジネスに関心のある企業やNPOに対する相談会を開催し、事業者数や職種を増やしていくことを考える。
18	学生の力の活用を	まちづくりや地域活動のいろいろな面で、若者の参加ということがよく言われる。その点で、大学・短大の学生たちの力をまちづくりに使っていく仕組みを積極的に考えるべきだ。岡山大学も岡山市との連携でまちづくりに参加しているが、もう少し頑張らないといけない。
19	学生と地域との関わりを	岡山には多くの大学があり、どう活用するかが重要だ。大学間の連携や学生と地域との出会いが必要になる。学生が地域と関わるようになれば、愛着が湧いてくる。大学側も世界に通用するようなトップの人材を招くことで、学生が集まる。そうした優れた人と地域がつながることが重要だ。
20	大学との連携を地域全体で深めるべき	大学には岡山以外の他地域から来ている学生が多い。そういった学生にまちとの関わりを深めさせ、いろいろな体験を通じて、岡山を好きになってもらうことが重要だ。そうすれば岡山のアピールがしてもらえ、就職や定住にもつながる。大学との連携を地域全体で深めていく必要がある。

資料４－４
（参　考）

岡山市基本政策審議会における委員発言要旨（市民協働・ESD分野）

No.	発言のポイント	要旨
21	大学と地域との連携を	岡山市には大学がたくさんある。大学を地域活性化や教育など、いろいろなことに活用していく。そのために互いの連携や情報交換をしっかりすることが非常に重要だ。
22	ポートランドを手本に岡山型ESDの一層の発展を	昨秋岡山市でESDの世界会議が開催され、岡山モデルとして高い評価を受けたことは喜ばしい。このESDを今後どのように目標や具体像を目に見える形で描いていくかが課題になる。なすべきこととしては環境への配慮、地産地消、人間優先といった持続可能なスタイル、地域構造に改めていくことだ。その点で、ポートランドが手本、モデルになりえないか。
23	当事者意識の醸成を	持続可能なESDの取り組みのベースとなる当事者意識の醸成が求められる。岡山を好きな人、郷土愛のある人を育てることが必要だ。小中学校で、地域を知る、地域の当事者としての意識を醸成するためのプログラムが求められる。同時に市民もまた、こういった話をセッションできる場を持つことが必要だ。
24	知見の共有と若者への情報発信を	ESDの世界会議で集約された知見をESDだけではなく、まちづくりだとか、いろいろなことでの市民協働にも応用したらどうか。そのための情報交換を行い、参画・評価・フィードバックの制度設計を手掛ける。高校生・大学生・企業に情報発信して、若い人の声を集めることが必要だ。そのためにも企業経営者のこうした場への関わりが求められる。
25	社会参加で経験や技の活用を	健康寿命推進のキャンペーンとして、ESD運動をより進める必要がある。40年、50年同じ仕事をしていると、誰もが職業的なプライドや匠の技的なスキルを有している。町内会だけでなく、連合会的なものを通じて社会参加をすることで、そうした技を生かしていく。そういうことができたら健康寿命が延びるのではないか。
26	岡山独自のESDのアピールを	岡山のESDが公民館を拠点にしているのは、市民協働、持続可能なコミュニティを考える上で、場所にしたほうが分かりやすいからだ。岡山市は公民館活動が非常に盛んで、公民館は中学校単位で設置されているため、ESDの重要なポイントである社会と学校の連携がしやすい。公民館を拠点とするESDは岡山ならではの特色で、世界に発信できる。その点をもっと強調する必要がある。
27	公民館活動への支援を	公民館はまさに地域での心の拠り所で、ますます重要性が高まる。ただ、利用者とそうでない人とでは、認識や評価がかなり違うのではないか。開かれた公民館活動というとおかしいが、館長の手腕一つでかなり変わってくる。活動に対して行政の支援をお願いしたい。
28	担い手の育成を	ESDを進めるにあたり、一番の問題はコーディネーターの育成、担い手が不足している点だ。持続可能な社会をつくることを目的としながら、活動の持続可能性に問題がある。その点をどのように改善していくかが大きなポイントだ。情報提供や意識啓発も含めて、積極的に市民に情報発信をしていくことが必要だ。
29	公民館を核とした活動を	高齢化が進み、町内会長のなり手がいないとか、高齢者の所在が十分把握されないなどの問題がある。地域コミュニティを支えてきた人と人との絆が希薄になっており、それをどう再生するかが大きな課題だ。ESDの活動、公民館を核とした地域コミュニティの活動の活性化、コミュニティ再生に取り組む必要がある。